

アチーブメント RSS レーシング

全日本カート選手権参戦 Report

西地域第2戦中山大会

■開催日：5月16～17日 ■天候：晴れ

■路面状況：ドライ ■参加台数：15台



波乱の展開となった第2戦 粘り強く走り9位でフィニッシュ

全日本カート選手権西地域第2戦が、5月16～17日の2日間、岡山県・中山カートウェイで開催された。

3月末の開幕戦で全日本デビューを飾り、一時トップを走る活躍も見せた三澤拓真は、アジアパシフィック選手権参戦を経て、今大会に臨んだ。

会場となる中山カートウェイは、西日本のカートレースにとっては中核的存在ともいえるコース。オープンから45年を経過した老舗コースだ。クラシカルコースらしく、コンパクトなコースレイアウトではあるものの、各コーナーの通過スピードも速く、横Gが大きくかかることからドライバーにとっては非常に厳しいコースとも言われている。

また例年、酷暑が話題となるほどだが、今大会は日差しこそ厳しかったものの、気温自体はさほど上がらず、例年ほどの暑さに見舞われることはなかった。

タイムトライアル (30.672/10位)

タイムトライアルでは、コースオープンから時をおかずにコースインし、積極的に周回を重ね、タイムアップを図る。それでも、なかなかタイムを伸ばすことができず、全体の10番手タ

イムにとどまった。予選は5列目と、ちょうど中団でのスタートとなる。

予選ヒート (15周/8位)

15周で争われる予選ヒート。三澤は、まずはポジションキープで序盤のレースを進めていく。5周目には7番手まで順位を挽回し、さらに上位進出を狙っていくが、最後は一つポジションを落とした8位でチェッカー。決勝スタートは4列目グリッドからとなった。

決勝ヒート (30周/9位)

30周の長丁場となった決勝ヒート。上位進出へ向け、スタートが大きなチャンス。三澤はヘアピンの2コーナーでインにラインをとるものの、その前後で数台がスピンやクラッシュをおこし、そのうちの数台が三澤のラインをふさいでしまう。接触こそ回避した三澤だったが、この影響で集団からは大きく遅れた最後尾となってしまった。

それでも、30周と長いレースのため追い上げを図る三澤は、集団に追いつくと次々と前車をパスし順位を挽回していく。10周終了時点で11番手まで上がると、その後しばらくはその順位のまま周回を重ねるが、終盤に前のグループ

に追いつき2台をパス。9位でチェッカーを受けた。

なお、同系チームのTAKAGI PLANNING所属の宮下源都は終盤までトップを走る活躍を見せ、最終的には開幕戦に続く連続表彰台となる3位を獲得している。

Driver's Voice



三澤拓真

1周目のアクシデントは、自分はイン側に寄れたんですが、後ろや前でスピンなどがあり、僕は当たらずに避けたんですが、僕の前に当たったカートが止まってしまい、通行止め状態になってしまいました。それをかわして、前があいたときにはだいぶ集団から離れていました。それから追いつこうと思っていましたが、焦ってしまいました。車のセットなどは毎ヒート変えて、最後は思うように走るようになっていたんですが、一発のタイムは出ない状態でした。次回の瑞浪に向けては、もっと内容の濃い練習をして、いろいろとわかってきたことも多いので、それを生かしてがんばりたいと思います。今回はいろいろサポートをいただき、ありがとうございました。

今週は、もうひとつだった。コンマ1秒くらい足りない。一発の速さがなかった。

金、土曜とあまり走れず、もう少し走り込んで臨めれば良かったかもしれない。

次回の瑞浪は、三澤自身、ジュニア時代に2回勝っているコースなので、期待できると思っている。

また、もっとメカニックとコミュニケーション

ンをとりながら、セッティングを伝えて進めていく、車を作っていくのも勉強だ。まだ、自分の感覚で走ってしまっているので、これから車へのコメント、評価なども覚えていく必要がある。

開幕戦が良すぎたという面もあるし、いきなりは勝てない。今回はニュータイヤでタイムが出なかったところが反省点だが、レースラップ

は良かったので、ニュータイヤの使い方とフロントブレーキの使い方を覚えれば、もっと良くなるだろう。

今シーズンまだ長いのであるので、課題を乗り越えて勝ってほしい。

今回も、スポンサーの方々には様々なご支援を頂きありがとうございます。今後へもご期待をお願いいたします。

RESULTS

| Pos. | No. | Driver | Team | Frame | Engine | Tire | Q.P. | Q.H. |
|------|-----|--------|----------------------------------|----------|--------|------|--------|-------|
| 1 | 13 | 富田自然 | Tech Miyazawa Snap-on motorsport | KOSMIC | IAME | BS | 30.577 | 6 3 |
| 2 | 17 | 佐藤巧望 | INTREPID JAPAN | INTREPID | IAME | BS | 30.429 | 4 4 |
| 3 | 20 | 宮下源都 | TAKAGI PLANNING | EXPRIT | IAME | BS | 30.393 | 2 2 |
| 4 | 23 | 環 優光 | T.EMATY | TONYKART | IAME | BS | 30.349 | 1 1 |
| 5 | 8 | 丹澤慧斗 | Tech Miyazawa Snap-on motorsport | KOSMIC | IAME | BS | 30.394 | 3 15 |
| 6 | 7 | 三宅淳詞 | A TEAM Motorsport | CRG | IAME | BS | 30.678 | 11 10 |
| 7 | 14 | 小林一景 | Mad-Croc Karting | MAD-CROC | IAME | BS | 30.646 | 8 12 |
| 8 | 11 | 米倉英輝 | AKILAND RACING | MAD-CROC | IAME | BS | 30,469 | 5 5 |
| 9 | 21 | 三澤拓真 | アチーブメント RSS レーシング | EXPRIT | IAME | BS | 30.672 | 10 8 |
| 10 | 12 | 東 拓志 | INTREPID JAPAN | INTREPID | IAME | BS | 30.659 | 9 7 |

ポイントランキング

| Pos. | Driver | 有効 | 累計 |
|------|--------|------|------|
| 1 | 環 優光 | 54.0 | 54.0 |
| 2 | 丹澤慧斗 | 53.0 | 53.0 |
| 3 | 富田自然 | 52.0 | 52.0 |
| 4 | 宮下源都 | 49.0 | 49.0 |
| 5 | 三宅淳詞 | 46.0 | 46.0 |
| 6 | 佐藤巧望 | 32.0 | 32.0 |
| 7 | 小林一景 | 29.0 | 29.0 |
| 8 | 三澤拓真 | 25.0 | 25.0 |
| 9 | 東 拓志 | 18.0 | 18.0 |
| 10 | 廣岡陸勢 | 16.0 | 16.0 |

全日本カート選手権 FS125 クラスについて

全日本選手権は最高峰クラスに位置づけられる KF クラスが全国统一シリーズで開催されているのに対し、KF へのステップアップを目指す選手が主体となる FS125 クラスは、日本を東西に分割し、それぞれの地域で5戦ずつを消化。その後、東西両地域の選手が集まり、東西統一最終戦が開催され、すべての大会での獲得ポイントから有効ポイントを合算しチャンピオンを競う方式を採用しています。今季の日程は下記の通りです。和歌山県出身の三澤は西地域シリーズに参戦し、シリーズチャンピオンを目指します。

【全日本選手権西地域開催日程】

| | | |
|---------|--------|---------------------|
| 第1戦 | 3月29日 | 琵琶湖スポーツランド (滋賀県) |
| 第2戦 | 5月17日 | 中山カートウェイ (岡山県) |
| 第3戦 | 6月28日 | フェスティカサーキット瑞浪 (岐阜県) |
| 第4戦 | 8月2日 | オートパラダイス御殿場 (静岡県) |
| 第5戦 | 8月30日 | 神戸スポーツサーキット (兵庫県) |
| 東西統一最終戦 | 10月18日 | 鈴鹿サーキット国際南コース (三重県) |

アチーブメント RSS レーシングチーム



監督：高木虎之介
 ドライバー：三澤拓真
 メカニック：岡本康裕
 使用マテリアル
 CHASSIS：EXPRIT
 ENGINE：IAME Parilla X30
 TYRE：BRIDGESTONE
 ※エンジン&タイヤは主催者指定のワンメイク制
 (今大会はダンロップを使用)